

研究・調査報告書

報告書番号	担当
45	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Genetic and Environmental Risk Factors for Intracerebral Hemorrhage: Preliminary Results of Population-Based Study 脳出血の遺伝的危険因子と環境要因：地域での調査の予備報告	
執筆者	
Daniel Woo, Laura R. Sauerbeck, Brett M. Kissela, Jane C. Khoury, Jerzy P. Szaflarski, James Gebel, Rakesh Shukla, Arthur M. Pancioli, Edward C. Jauch, Anil G. Menon, Ranjan Deka, Janice A. Carrozzella, Charles J. Moomaw, Robert N. Fontaine, Joseph P. Broderick	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Stroke, 33(5); 1190-1196, 2002 May.	
キーワード	
apolipoproteins, hemorrhage, risk factors, stroke アポリポ蛋白、出血、危険因子、脳卒中	
要 旨	
<p>背景と目的 脳出血の発症後 30 日までの急性期死亡割合は 40%～50%であり、効果的な治療法はない。脳出血に対する遺伝的要因と環境要因双方を検討する目的で計画された地域に基づくケース・コントロール研究の途中結果を報告する。</p> <p>方法 出血性脳卒中症例をケンタッキー州北部のシンシナティールにある 16 病院すべてで前向きに調査した。すべての症例は医療記録の脳の画像を用いて診断した。問診および遺伝子が採取された症例に対する対照群は地域住民の中から年齢、性別、人種でマッチングして選んだ。脳出血の危険因子はロジスティック重回帰分析を用いて解析した。</p> <p>結果 脳出血患者 188 例 (大脳 (側頭葉、前頭葉、頭頂葉、後頭葉を指す) の出血 67、大脳以外の出血 121) に対して 366 例が問診を受け対照群として抽出された。ロジスティック重回帰分析の結果、大脳部の脳出血についてはアポ E2 もしくはアポ E4、飲酒回数、脳卒中の既往、一親等の脳出血発症が独立な危険因子であることが認められ、大脳以外の脳出血については学歴が高いほど発症の危険性が減少することが認められた。また、大脳の脳出血に対するアポ E2 もしくはアポ E4 の寄与危険度は 29%であり、大脳以外の脳出血に対する高血圧の寄与危険度は 54%であった。</p> <p>結論 この研究によって、脳出血の病態生理学的特徴は病巣部位によって異なるという重要な疫学的根拠が明らかとなった。また、大脳出血の 3 分の 1 はアポリポ蛋白 E4 または E2 を有しており、大脳以外の出血の半分は高血圧によるものと推定された。</p>	